

## 地方創生 SDGs 特別講座

会派 未来 松山篤夫  
車戸明良

日時 2024年1月16日

場所 リファレンス国際ビル

講師 山中俊之 芸術文化学院教授

### 地方創生 SDGs の考え方

- ① 単に人口増加策ではない。社会全体がどのように SDGs の視点から変革していくかが問われる。
- ② 世界の動きを視野に入れる。世界経済の動向に加え、先進事例を取り入れる。
- ③ リーダーとリーダーが行う尖ったことを取り入れる地域風土が重要である。

### 地方創生に向けた5つの特徴

- ① 普遍性 先進国を含め、全ての国が行動
- ② 包摂性 人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」  
地球上のすべての人に対する配慮が求められる
- ③ 参画型 全てのステークホルダーが役割を
- ④ 統合製 社会・経済・環境に統合的に取り組む
- ⑤ 透明性 定期的にフォローアップ  
毎年国連総会時期にレビューされる

### 事例

徳島県 上勝町・神山町

徳島市から車で1時間の上勝町は、長年人口減少の過疎の町であったが、「葉っぱビジネス」と「ゼロ・ウエスト」で人口増を図る。

神山町は外国人の移住を奨励して多くの外国人移住。

### 過疎の中身を改善する

徳島県中山間部の人口5300人の小さな農村である神山町。ここにはIT・デザイン・映像関連企業など16社がサテライトオフィスを置くほか、アーティストや企業化が多数移住してきている。移住者たちのクリエイティブな発想が地場産業である農業にも刺激を与え、新しいビジネスやサービスが生まれ、地域内で経済がゆっくり回り始め、地方創生に携わるもので、神山町の名を知らない人はいない。

神山町の発展を20数年の長きにわたって牽引してきたのは、NPO 法人グリーンバレーである。リーダーの大南信也氏は、1970年代後半にスタンフォード大学大学院に留学してシリコンバレーの空気に触れ、神山町に帰郷して地域づくりを始めた。氏は「神山は何もないまちですが、シリコンバレーのようにクリエイティブな人たちが集まれば、何か新しいことが起こるのではないかと考えた」と述べておられる。

神山町を表す言葉として知られる（創造的過疎）は、大南氏が2007年に作った造語である。過疎化の現状を受入れ、過疎の中身を改善する。若者や創造的な人材を誘致し、人口構成の健全化を図り、多様な働き方が可能なビジネスの場としての価値を高めることで、農林業だけに頼らない、持続可能な地域を目指すというコンセプトである。

日本の過疎地における一番の問題は、雇用がない、仕事がないことである。であれば、仕事を持った人、仕事を創り出す人を集めれば、問題は解決する。神谷町では、「ワークインレジデンス（仕事を持った移住者の誘致）」、「サテライトオフィス（場所を選ばない企業の誘致）」などのプロジェクトに力を入れてきた。

神山町では2023年4月「神谷高専」が開校し話題になっている。神山町という「奇跡の田舎」とも呼ばれるような東京の真逆の限界集落の場所で、起業家になるためのテクノロジー、デザインを学べる高専というキーワードをもっている。どんどん教員が集まり、移住するという人生の選択が出てきた。開校資金は27億円集まった。

神山高専は「モノをつくる力で、コトを起こす」という言葉をミッションとしている。

## **都市移住時代の終焉**

### **大都市集住のリスクが広く認識される**

**密・集住でない地域の魅力が再確認、もっとも単に自然があるというだけでは魅力が中途半端**

**自然と芸術が両立した新たな芸術田園都市構想を打ち出すことも有効な対策となる**

### **自治体 DX のあるべき方向**

- ① 単なる電算化、ペーパーレスではない。自治体のあり方を根底から変える施策
- ② 社会変革、組織変革の知見とIT 知見の融合が必要
- ③ 外部人材と内部人材の役割分担

### **コミュニティの更なる劣化**

現代日本社会は、コミュニティの助け合いが脆弱と言われてきた



ソーシャルディスタンスにより更に劣化する可能性



引きこもり、孤独死、DVなどの問題がより深刻化、ボーダーラインの人々の状況悪化。

ソーシャルディスタンス時代のコミュニティ(市民参画、協働)や福祉・医療の在り方を検討すべきである